



# Kainan East Rotary

DISTRICT 266

CLUB WEEKLY BULLETIN

事務所 海南市日方1294 海南商工会議所内 TEL (07348) 2-4363

例会日 毎週月曜日 12時30分 ♣オ1例会のみ 18時30分 於海南商工会議所 4F

会長 田岡啓一 幹事 奥村匡敏 会報委員長 柳川和一郎 委員 島村佳郎 松田易己

オ283回 例会 昭和56年4月27日(月) 午後12時30分 於海南商工会議所

1. 開会 司会 西岡豊副会長
2. ロータリーソング「我等の生業」
3. ビジター紹介 丸谷順正様(有田南R.C.) 中村哲三様(海南R.C.)
4. 出席率報告 77.78% 会員総数 45名 出席者数 35名  
前回修正出席率 93.18%

名手出席委員長 5月オ一例会 5月11日は、100%デーと定めています。全員の出席を希望します。

5. 会長スピーチ 西岡豊副会長 会長所用の為代行いたします。
  - ・ 本日は会員卓話です。広野旭君、深谷政男君よろしく。
  - ・ 紀陽銀行海南東支店長 神谷充薫君が、角谷勝司君の紹介で入会致しました
  - ・ 4月24日和歌山南ロータリークラブ20周年記念式典に、会長代理として、奥村幹事と共に参加して参りました。姉妹クラブ締結の台湾関山R.C.の38名も参加盛大でした。
  - ・ さきに当クラブを訪問した米国G.S.E. チームメンバーより、来る4月30日大阪国際空港より帰国の途に就く旨連絡ありました。有志の方々の見送りを募ります。以上です。
6. 新入会員 神谷充薫君の紹介と会員バッヂの授受  
角谷勝司君 長尾海南東支店長転出のあとを受けて、神谷さんが就任されました。私の推薦を受け入れられ入会を認められました。御紹介いたします。神谷充薫君 角谷さんの御紹介により当クラブに入会出来ましたのは、誠に光栄と存じます。未熟者ですが立派なロータリアンになる様努力致します。西岡豊副会長より会員バッヂ他贈呈される。
7. 幹事報告 奥村匡敏幹事
  1. 理事会を5月7日(木) P.M. 7:30木村屋にて行います。
  2. 5月9日次期会長幹事研修会があります。該当の方よろしく
  3. 和歌山南R.C.20周年記念式典は、西岡副会長も申された通り農協会館にて1時間半にわたって行われた。記念式には宇治田市長を始め飯沼ガバナー 藤沢・井関元ガバナー、ホスト和歌山R.C.会長等が来賓として又和歌山を中心とした有田から橋本に到る12R.C.の会長・幹事が招かれて居りました。南R.C.は、和歌山R.C.がスポンサーとなり、20年前和歌山東R.C.に続く

TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために



て才三番目に創られたR.C.であります。創立時の人員は24名、5周年で43名10周年62名、15周年72名、20周年で77名と、私ども海南東の創立時の25名、5周年の43名と非常によく似た経過をたどっております。事業としては、創立当時より和歌山刑務所の慰問を、菊作りを通じて現在に到る迄、社会奉仕の一貫として続けて居られるとの事です。又10周年記念行事として、和歌浦御手洗池の清浄と植樹を10年間続け、今20周年を以って完了させました。15周年記念に於ては、台湾の関山R.C.との姉妹クラブ締結を決め、本会又継続の締結を交わしました。和歌山南R.C.20周年記念式典についての報告にします。

8. 委員会報告 次年度幹事 中村隆俊君 次年度会長 片山博之君  
次年度の委員会組織書を郵送いたしました。お気に入らない担当もあるかとも  
思いますが、全面御協力をお願い致します。

9. 会員卓話 広野旭君

祖父が和歌山市大橋のたもとで製材業を営み、その製品を海南漆器の原材料として海南に販路を求めた。父は製材でなく新宮で丸太から板に引いたものを海南へと、それぞれ和歌山市に生れながら海南との交流が多かった。戦後経済活動の復活に伴って、再び父は新宮からの海南向けの原材料の販路を再開したが、漆器業界の原材料の変革が起り桧板の木質材からユリヤ樹脂系のプラスチックの素材に変わった。板の需要が減り、木地屋の仕事が成立たなくなり、木工関係に転換を余儀なくされ、扱ひ商品も木材から建材へと移り変わった。

私の職業分類は「合板加工」となっていますが、新建材販売が業種となっております。建材は主として住宅用材と、家具用材に大別されますが、私どもは家具用材の販売を中心としています。オイルショック以来省資源が叫ばれ、木材も限りある資源として、省エネを求められています。唯石油と違って木材は植林の方法で、ある程度の補足が可能であるが、製品になるには多年の才月が要るので、矢張り節約を求められています。節約の為如何にすればですが、原木を板柱にする場合は、50~60%の歩止まりしかないが、合板にすると73%まで上昇する。尚この73%より以上の歩止まりにする為の努力が求められ、研究が進んでいます。

この件に関し、ドイツが最先進国で、原材料をチップにして接着剤で混ぜ、圧縮した素材を開発した。因みにこれはパーティクルボード（日本名＝木材削片板）と呼ばれ、比重は0.7と普通木材より重いが、まだ水には浮く素材であります。この素材は使用の目的により、使い勝手の悪い場合もあるので、尚このチップをすりつぶし繊維状にし凝固剤と混ぜ、圧縮したより有効な素材（低比重ボード）が開発されました。圧縮の度合いで幅広い素材として使用され強度も繊維が重なって出来ているので、通常木材と比較して良好とされています。歩止まりは93%と有効になって来ました。この様な素材にメラミン樹脂や紙・フィルムを貼り、化粧板も作る事が出来るようになりました。

戦後ドイツを中心に木材を如何に有効に使用して素材を作るかと云う歩止まり計算で、研究開発されて来たこの工法は、日本に於て昭和32年頃始めて国産化され現在に到っております。この合板乃至化学材は、接着剤が良いので危険不安は殆んどないと云えます。日本は諸外国と木に対する感覚が違い良質の純木材を求め勝ちですが、諸外国では材料の強度を求めるので、これらの合成材木は、日本では外国の消費量の10分の1程度しか使用されていません。物の考え方でまだまだ発展しても良い商品と考えられます。長時間御静聴有難う御座居ました。

・ 深谷政男君の卓話は5月18日に順延いたします（奥村匡敏幹事）